

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F120310105848	設置等組織名	農学部アグリデザイン学科
大学名	清泉女学院大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	長野	事業計画名	清泉女学院大学農学部設置計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和6年4月～ 新学部設置のための計画の具体化に着手 1-② 令和6年6月～ 採択内定を受けて新キャンパス開設予定地の自治体と協議開始 1-③ 令和6年6月～ 設置及び設備等に係るコンサルティング業務・調査業務を専門事業者へ委託 1-④ 令和6年7月～ 採択公表を受け、産業界・自治体で構成する「新学部設置協議会」（仮称）を組織するため、構成員の中核となる経営者等への説明と就任依頼 1-⑤ 令和6年7月～ 学部長候補者、基幹教員の調査と就任依頼のため各地へ出張 1-⑥ 令和6年7月～ 学生募集、学部運営等の調査のため、他大学へ視察 1-⑦ 令和6年10月～新学部設置協議会のメンバー候補者へ就任依頼 1-⑧ 令和6年10月～ 新学部構想に係るリーフレット及びホームページ（特設）制作 1-⑨ 令和6年10月 新学部構想を推進するための事務職員を新規雇用 1-⑩ 令和6年11月 定例の外部評価委員会で新学部構想について説明 1-⑪ 令和7年1月～ 学部長候補者が顧問に就任、カリキュラム等の具体化に着手 1-⑫ 令和7年2月 第1回新学部設置協議会を開催（以降は適宜、開催）、新学部の概要等について説明、意見交換とともに協力の要請、地元企業との事前協議 1-⑬ 令和7年3月～ 新学部の広報活動を開始 1-⑭ 令和7年11月 定例の外部評価委員会において新学部構想の進捗等の点検評価	1-①令和6年4月～ 新学部設置のための計画の具体化に着手 1-②令和6年6月～ 採択内定を受けて新キャンパス開設予定地の自治体と協議開始 1-③令和6年7月～ 採択公表を受け、産業界・自治体で構成する「新学部設置協議会」（仮称）を組織するため、構成員の中核となる経営者等への説明と就任依頼 1-④令和6年7月～ 学部長候補者、基幹教員の調査と就任依頼のため各地へ出張 1-⑤令和6年7月～ 学生募集、学部運営等の調査のため、他大学へ視察 1-⑥令和6年10月～新学部設置協議会のメンバー候補者へ就任依頼 1-⑦令和6年11月 定例の外部評価委員会で新学部構想について説明 1-⑧令和6年12月 第1回新学部設置協議会を開催、新学部の概要等について説明、意見交換とともに協力の要請、地元企業との事前協議(承認日：令和7年3月26日)	R6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 学部長候補者の選任が難航し、数名の候補者との面談を経て、ようやく令和7年3月に決定に至った。よって令和6年度中に予定していた顧問就任が次年度となった。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し	2-① 令和7年9月～ 新学部のための新校舎建設に係る事業者選定のための説明会開催 2-② 令和7年12月～新校舎建設の事業者決定、基本設計、実施設計の依頼 2-③ 令和8年3月 新校舎着工	2-①令和7年2月～ 新学部のための新校舎建設に係る事業者選定のための説明会開催(承認日：令和7年3月26日)	○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和8年3月 農学部アグリデザイン学科（仮称）認可申請予定 令和8年3月 収容定員増の学則変更に係る認可申請予定			
フェーズ1 後倒し	1-① 令和6年から継続 新規採用した事務職員の雇用（新学部設置業務に従事） 1-② 令和7年から継続 学生募集のための広報活動、認可後は学生募集活動 1-③ 令和8年3月～ 産業界や他の高等教育機関と連携体制を構築し、連携協定の締結		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	2-① 令和8年3月から継続 新校舎建設工事の推進 2-② 令和8年3月～ 施設設備機器の選定、決定 2-③ 令和9年2月 新校舎竣工、設備機器、備品等の搬入		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和9年4月 農学部アグリデザイン学科（仮称）開設（入学定員80人、編入学定員若干名、農学関係、経済学関係、社会学・社会福祉学関係）			
フェーズ2 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-① 令和9年4月 新学部の事務室に追加で新規に事務職員、技術職員を募集し配置 3-② 令和9年4月～新学部事務室開設、運営開始 3-③ 令和9年4月～新学部の情報発信、オープンキャンパス開催告知等の広報活動開始 3-④ 令和9年5月～新学部設置協議会で開設報告、定例報告 3-⑤ 令和9年11月～ 毎年同時期に外部評価委員会において新学部の点検・評価		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和8年4月 定員減に係る届出予定（実際の減員等の年度：令和9年度、減員数：60名、学部学科は未定）			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	清泉女学院大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公算要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	清泉女学院大学
-------------	-------	-----	---------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- ☒ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
「a.企業や自治体と連携したPBL等の科目の整備・実施」と、「b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施」については、本事業採択後のフェーズ1の期間中に検討を進める。具体的な行程や手法等については以下のとおりとする。 「a.企業や自治体と連携したPBL等の科目の整備・実施」については、令和6年度中の発足を予定する学外協議会の中で検討し、協議会参加企業にPBL実践体験型授業に協力可能な企業を募る。並行して学部長候補者を令和6年度中に選任し、顧問としての就任を依頼する。この学部長候補者とかリキウムや主要科目について検討を進める中で、PBL科目を具体化し、協力を申し出てくれた企業の中から、当該科目の到達目標等を勘案し、選定するとともに実践体験のあり方について議論を深め、教育効果が高まるプログラムを策定していく。新学部開設予定となる千曲市や、既存学部が所在する長野市とは、すでに連携協定を締結しており、食と農に関する公共政策についてPBL型授業への協力を要請していく。特に長野県「日本酒・ワイン振興室」や、ぶどう農家の70％が移住者という長野県生坂村にある生坂村農業公社なども連携し、実践を通じた多面的な学びの機会を整備していく。 「b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施」については、信州大学（主には農学部）と新たに協定を締結し、連携した科目を整備していく。また、異なる立地にある吉備国際大学農学部（南あわじ市に所在）や首都圏の大学とも新たに連携し、交流を図りながら実践的な科目の整備を検討していく。これらの大学とは本申請書提出前に本学の構想を説明済みで採択後に正式に協定締結に向けて始動する。	「a.企業や自治体と連携したPBL等の科目の整備・実施」 農学部設置協議会には長野県主に東北信地区の10社以上企業にご賛同いただき、発足をした。第1回協議会の中で、PBL実践体験型授業に協力可能な企業を募った。また、新学部開設予定となる千曲市や長野県にもPBL実践体験型授業の協力要請を行った。 「b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施」 令和7年度以降に信州大学と新たに協定を締結し、連携した科目を整備していく予定である。	今後、教育効果が高まるプログラムを作成していくため、企業・自治体の抱える課題（ニーズ）と、学生の学びや大学の専門性（シーズ）を効果的にマッチングさせていく必要性や、関係を継続的に維持し、次のプロジェクトにつなげていくための仕組み作りも必要であると考えている。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- ☐ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
フェーズ1期間中に検討する。具体策については令和6年度中に学内準備委員会を中心に検討するが、「女子学生の確保に向けた取組」については、本学が現時点で女子大（現在は令和元年度開設の看護学部のみ共学、令和7年度から全学部で共学）であることから、県内高校を中心として女子学生の確保については、すでに実績がある。また姉妹校である長野清泉中学高等学校も含め、本学校法人は長野県において女子教育の歴史があり、大学は甲信越北陸唯一のカトリックの女子大として広く浸透している。高校と併設の短大を含め、数多くのOGを輩出しているとともに、「愛泉会」という親睦団体を組織しており、こうした組織を活用（会報送付時にパンフレットの同梱、定期総会での説明等）、新設する農学部の告知と認知の拡大を図る。「地域の初等中等教育段階の学校との連携」については、農学部開設予定地の千曲市の全面協力を得られることになっており、本事業に採択され次第、地元の初等中等教育段階の学校と連携し、これまでも既存学部で実施してきた「出前授業」（出張授業）を展開していく。最近では食料安全保障の話題がマスコミでも広く取り上げられおり、また千曲市は棚田が日本遺産に指定されているほか、市内には田園風景が広がり、市内の子どもたちにとって、農業は身近な存在となっている。こうした背景を活かし、出前授業では、"Think globally, Act Locally"の観点から食と農の関係、長野県の特徴や課題などについて、学部長候補者が顧問として就任するまでの期間は、本学の理系学位保有教員を中心に講義し、将来の学生募集につなげるだけでなく、地域の理解の深化も図り、地域貢献の一環とする。	「b.女子学生の確保に向けた取組」 本学は令和7年度より全学男女共学化となったが、令和7年度の入学生では女子学生比率が81％であり、高い比率を保っている。 「c.地域の初等中等教育段階の学校との連携」 農学部開設予定地の千曲市の全面協力を得て、地元初等中等教育段階の学校と連携し、これまでも既存学部で実施してきた「出前授業」（出張授業）を展開していくことの情報共有をすることができた。	地元初等中等教育段階の学校と連携し、「出前授業」を実施していくために、本学が提供できる内容と、初等中等教育学校側が求める内容を合致させるための丁寧なヒアリングと調整が不可欠と考えている。

大学名	清泉女学院大学
-----	---------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	清泉女学院大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	176	216																	
		入学者数	人	132	240																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	176	216																	
		入学者数(B)	人	132	240																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.75	1.11																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	704	744																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	680	741																	
		編入学者数	人	2	13																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.97	1.00																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度												
改組状況									選定												
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		17,933	28,775	18,107	21,902	30,521	54,513	27,652												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	22,928
本事業による助成金の額(F)	千円	895,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	45,303

特記事項

「3.大学（学士課程）の状況」にて、編入学定員が0人と記載しているが、若干名を意味している。
--